10
2000.5

薬友会報

千葉大学薬友会

西千葉駅　今昔

千葉大学も創立50周年を迎え、この薬友会報も記念すべき第10号となりました。

千葉大学広報より　（昭和46年ころ）

現在の西千葉駅

北　口（千葉大学側）

南　口（海側）

薬友会会長挨拶 …… 2
専攻長挨拶 …… 2
新任教授紹介 …… 3
退官に際して …… 4・5
今甦る萩庭さく葉標本 …… 6
三宅良一先生ご逝去を悼む …… 7
卒後教育への熱い眼差し …… 8
研究室紹介 …… 9
クラス通信 …… 10
支部だより・亥鼻会・
　ゐのはな山岳会・サークル紹介 …… 15・16
薬友会より …… 17
学部だより …… 17
卒業生・修了生の進路・
　薬学部入学者出身一覧 …… 17
学会賞受賞者・主催学会一覧 …… 18
学位授与者一覧 …… 18・19
職員の異動 …… 19
生涯教育セミナー …… 20
編集後記 …… 20

薬友会会長挨拶　　五十嵐一衛

薬友会会長として２年目を迎えました。会報の発行が10号になったと聞き、改めて感慨を覚えています。故山根先生を中心として、同窓会を薬友会に改め、事務局を薬学部に置くという議論を数回にわたって行ったことが、つい昨日のことのように思い出されます。事の次第は創刊号の15ページに拙文を記してあります。

10年間で薬学部を取り巻く環境が大きく変わりました。その間、教養部より玉野井、大橋両先生をお迎えし、更に薬用資源教育研究センター並びに大学院での医療薬学専攻新設と薬学部は発展して参りました。また、平成11年度の嬉しいニュースとして、薬剤師国家試験の合格率が国公立大学の第一位となりました。

次の10年間の課題は教育研究のハード及びソフト面の整備であります。ハード面では、古くなった校舎の新築が悲願であります。本年度は、広さ200㎡のプレハブ校舎の施設が関係者の努力で認められましたが、一日も早い校舎新築のために努力していくつもりです。また、ソフト面としては、大学院の充実が目標であります。本年度は、医学部の大学院と一緒になった医学薬学研究科の新設を目指して頑張っていきたいと思います。この新設により、新しい境界領域型・融合型学問体系を構築し、新しい創薬、医療薬学の教育・研究の発展を目指したいと思います。皆様の御支援を切にお願い申し上げます。

専攻長挨拶

総合薬品科学専攻長　　鈴木　和夫

大学院薬学研究科が総合薬品科学専攻と医療薬学専攻の２専攻になったことにともない、各専攻の運営にかかわる専攻長という役割が誕生し、１年任期の３代目の総合薬品科学専攻長となったのが1999年４月１日でした。任期も終わりに近づいた２月10日に「専攻長挨拶」と題するこの原稿依頼を受け、反省の弁を考えていましたが、再選されたことで言い訳よりも前向きの発想をと考え直しています。

日本の高等教育は少子化と財政難という逆風の中で高度化を図ることが要請されています。高度な研究・教育は大学よりも大学院に比重を移し、研究を中心とした大学院と高度な専門職業人を養成することを目的とした専門大学院を選別・育成しようとしているように見えます。独立行政法人化が既定の事実となろうとしている中で、個々の大学・学部・研究科でそれぞれの目的を設定し、自分たちの存在理由を明示しつつ、その目標に向かい、かつ評価を受けなければならないようになってきました。

千葉大学薬学部は、３年前に（学部を持たない）独立専攻の大学院として医療薬学専攻を設置しました。さらに研究を中心とした大学院（大学院重点化）をめざして、昨年、医学部と統合した大学院を構想として打ち出した。平成13年度の概算要求として再度要求することになりますが、研究中心だけでは受け入れられませんでした。高度の研究と専門職業人の養成をめざす大学院を構築するというバランスが必要な道を選ぶことになります。

医療薬学専攻長　　堀江　利治

平成９年度に千葉大学大学院薬学研究科に発足した医療薬学専攻は、お陰様で着実に成長しつつあります。３年を経過した今春には、25名の修士（臨床薬学）が誕生しました。修了生は薬剤師として医療機関、製薬企業、あるいはさらに大学院と様々な分野へと進んでいます。そして新たに博士前期課程に26名、博士後期課程に10名の大学院生を迎えました。現在、医療薬学専攻博士前期課程には54名、後期課程には18名の大学院生が在籍しています。

新しい制度であり、カリキュラムにはこれまでにない６ヶ月の医療薬学実務実習があります。毎年毎年様々な

経験をし、新たに改善すべき点も見えてきます。したがって、現在も試行錯誤を重ねながら教育システムの内容の充実を図っております。

医療薬学を目指して、優秀な大学院生がたくさん入学しています。医療社会で薬剤師として活躍したいと夢を抱いてこの分野を選択し、勉学に励んでいる大学院生も多いと思います。そのような大学院生たちの夢が叶えられるような社会体制の充実を心から願っています。このような点に関しましても、どうぞ皆様の一層のご支援の程お願い申し上げます。

新任教授紹介

薬品化学研究室　　村山　俊彦

このたび千葉大学薬学部、薬効・安全性学講座、薬品化学研究室を担当することになりました。私は、宇井理生教授（現東京都臨床医学総合研究所所長）のもとで北海道大学薬学部－大学院博士課程を修了し、研究をはじめました。この間、細胞膜受容体・GTP 結合蛋白とシグナルトランスダクションの研究に参加し、生化学的な細胞応答の解析を御指導頂きました。その後、野村靖幸教授（現北海道大学大学院薬学研究科薬理学分野）が講座を担当され、私は助手、助教授として、十数年ご一緒に神経系の情報伝達研究を行って来ました。野村教授からは、個体や臨床を意識した薬理学研究の重要性を教えて頂きました。渡辺和夫教授が担当されていた薬品化学研究室は多くの業績を挙げられています。同じ薬理学とはいえ少し専門の違う私ですが、渡辺教授が築かれた伝統を損なうことなく一層発展させたいと考えています。卒業生の方も気軽にお寄り下さい。

微生物薬品化学研究室　　山本　友子

21世紀を目前にして大学の大きな変革が求められている今日、身の引き締まる思いで赴任いたしました。微生物薬品化学研究室は、故山岸三郎教授により創設された長い歴史を持つ研究室であり、多くの傑出した卒業生を世に送り出してきました。この伝統をさらに発展させるため全力を尽くす所存です。昭和51年から60年まで薬学部で助手を務めましたが、以後は医学部で過ごしましたので、15年ぶりに薬学に、そして懐かしい母校に戻ってきたことになります。薬学部では抗生物質と病原細菌との関連を、医学部では細菌感染のメカニズムを分子レベルで解き明かす研究を続けて参りました。今後は両テーマを２本の柱に持つ研究室を築き、質の高い研究を目指しながら優秀な芽を育てていきたいと思います。薬学は教育の面でも転換期にあります。医師と共に医療の担い手となりうる薬剤師を育成するため、将来をしっかりと見据えて教育に専心したいと考えております。

膜機能学研究室　　山口　直人

本年より畝本　力教授の後任として膜機能学研究室を担当することになりました。私は本学で基礎有機化学・生化学・酸素学を学んだ後、東京／京都／大阪／熊本／ボストン／サンディエゴ／静岡で薬学部または医学部に所属して、免疫学・細胞生物学・分子生物学・遺伝学・発生学・血液学・腫瘍学を勉強してきました。現在、我が国の死亡原因第一位の癌「細胞内情報伝達に関わる様々な遺伝子に変異の蓄積が生じて起こる遺伝子の病気」の研究を進めております。今後、これまでに学んできたことを制癌へ向けた創薬のために活かして、遺伝子治療を視野にいれた細胞内情報伝達の研究を一層発展させたいと考えております。ポストゲノムと生命科学の一元化への激動の時代を迎えるにあたって、伝統ある母校の発展のために微力ではありますが、21世紀の社会に相応しい薬学教育と研究に努力いたす所存です。薬友会会員の皆様方のご支援ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

退官に際して

膜機能学研究室　　畝本　力

私は昭和32年に千葉大学薬学部を卒業し、その後４年生の卒業実習を受けた千葉大学腐敗研究所の微生物化学研究部門に残ることにした。ここで、宮木高明教授、林誠助教授の指導のもとに、「腐敗の化学」について研究することになった。すなわち、“食品の腐敗過程を化学的に記述せよ”と云う訳である。私の最初の仕事は腐敗過程における腐敗アミンの動態を生化学の立場から明らかにすることであった。その為にはまず揮発性アミン類の分離定量法を作る必要があり、各種アミン類の分離定量法の確立を目指した。この研究はアミン代謝酵素の研究に発展し、それまで知られていない酵素の発見に繋がった。腐敗研究所は昭和48年９月に生物活性研究所に改組され、微生物化学部は酵素化学部に転換したが、そこでさらに海洋細菌の酵素に関する研究を進めた。この過程で、海洋細菌の呼吸鎖は Na^+ で特異的に活性化されることを発見した。

その後、昭和52年４月に生体膜研究部門が設立され、同年８月この部門の教授に就任した。海洋細菌呼吸鎖の Na^+ 依存性は NADH-quinone reductase 複合体の反応領域にあり、この反応と共役して Na^+ が細胞外に排出された。この呼吸鎖に共役したナトリウムポンプの発見は世界的に注目され、海洋細菌ではプロトンばかりでなく、Na^+ の循環によるエネルギー共役の存在を証明した。昭和62年に再び研究所の改組があり、同年４月より薬学部の薬効・安全性学講座の膜機能学研究室に移籍した。それから13年を経てこの３月に退官することとなった。従って、最初の30年間は研究所に所属し、後の13年間を薬学部で過ごしたことになる。薬学部に移籍した頃は学部の運営参加や教育業務を果たすのに大変忙しい思いをしたが、研究室から巣立った多くの卒業生、修了生の活躍を見ていると、心休まる思いがする。私はここで一息入れさせてもらうが、皆様のより一層の御活躍を祈念します。

放射性薬品化学研究室　　大橋　國雄

教養部より移籍してからはやくも６年の歳月が流れ、この３月で薬学部を去ることになりました。移籍後の前半は、新しい講義の準備に追われ、半ば頃からはアイソトープ総合センターの旧施設の廃止、それに続く新センターの建設・運営と結構忙しい日々が続きました。今から35年ほど前1965年に放射化学の仕事を始めて RI との付き合いが始まり、以来その魅力にとりつかれて今日まで来てしまいました。薬学部に移籍してからは、日本原子力研究所及びその協力機関が始めた「がん治療医薬の開発を目指した放射性レニウムに関する研究」のプロジェクトに参加し、それを院生の研究テーマとして続けて参りました。私としてはそれまでとは実験手段が全く違ってしまったために四苦八苦の連続でした。今後この研究は、荒野先生のもとで進められ発展して行くことでしょう。２年ほど前からアイソトープ総合センターとの協同で始めたマルチトレーサー法と放射化分析を用いた植物における微量元素の研究は今後も原研や理研との共同で続けられて行くものと思います。

私が RI の仕事を始めた頃は、この仕事に誇らしさを感じていたのですが、最近、特に JCO 事故以来世論を気にしながら仕事をするというようなことになってしまいました。しかし、RI の利用は薬学・医学などの生命科学の領域では不可欠な手段でありますので、安全感覚を身につけながら今後も大いに利用し、薬学部における教育・研究がますます発展して行きますよう祈念致します。在職中は大変お世話になりどうもありがとうございました。

微生物薬品化学研究室　　澤井　哲夫

自宅から通学できる国立大学の条件を選んだ千葉大学でしたが、今の学生さんには想像も出来ない粗末な設備の稲毛・教養部も素朴な亥鼻ケ丘・専門学部も結構楽しく過ごしました。とくに教員、学生、事務員が家族的にまとまっていた頃の亥鼻ケ丘の生活は懐かしい思い出です。米国留学帰りの山岸三郎先生の恰好よさと宮木高明先生の人間的魅力に引かれて微生物薬品化学研究室で卒論実習を行った縁で、卒後38年間も千葉薬でお世話になりました。昨今、大学合理化が強力に進められていますが、大学の良さは多少規格に外れた人間も住める場所があったことです。合理化によりその余裕がなくなるとの心配もあり、その点私は大変幸運だったと思っています。

在任中には大学運営や全学委員会を通じて他学部の多くの先生方と親しくなりましたが、いずれもお世辞抜きで薬学部学生の質の良さを褒めてくれ、私も誇らしく思って来ました。私の研究室活動も研究に意欲のある学生諸君が来てくれたお陰と感謝しています。大学の第一の目的は教育ですが、多くの公的組織で見られる様に組織構成員の利益がいつの間にか優先し、本来の第一目的が後になる傾向が無きにしも非ずでした。しかし、薬学部では教育に熱意のある先生方と日頃のカリキュラム改善の努力、そして磨けば玉になる全国からの入学者があります。これからも優れた卒業生を輩出し、薬友会の一層の発展をもたらすと信じております。

最後に薬友会会員の皆様の益々のご活躍をお祈り致します。長年のご支援ありがとうございました。

薬品化学研究室　　渡辺　和夫

多くの出合いに感謝しつつ

私の研究人生は、千葉から出発して、いくつもの大学を経てまた千葉に戻る回帰の道をたどることとなった。その過程で実に多くの人々との出合いを経験し、その出合いに助けられて退官の日を無事迎えることができた。まずこの点に深い感謝を捧げたい。

桜吹雪の猪之鼻キャンパスの入学式で、44名の学友との出合いがあり、その後、この学友達の支援が、私の研究教育の大きな支えとなった。研究者としての道を歩むことになるきっかけを作ってくれたのも、東大大学院に先に入学していた千葉薬の先輩達だった。

そして、各地での武者修行を終えて再び千葉に戻った時には、池田仁三郎先生をはじめ先輩後輩の職員に温かく迎えて頂いた。

薬友会については、着任早々、岩城謙太郎同窓会長の意欲的な指導力と、これを支える新制初期からそれ以前の卒業の先輩方の母校愛に接して深い感銘をうけた。その後、この方々と共に、猪之鼻学舎屋根飾りの再建から、百周年記念事業、中でも百周年記念館の建設に到る一連の同窓会活動ができたのは楽しい思い出の一つとなっている。

研究面では、前任の原田正敏教授の遺徳で学内の多くの先生方と共同研究を組むことができた。特に天然物化学、合成化学の先生方との連携は、漢方薬の薬理の進展の大きな力となった。又、胃潰瘍関連の研究では、教室を巣立っていった卒業生が私に大きな力を与えてくれた。何度も大きな学会を主催したが、その度に多数馳せ参じて助けてくれた。

このように別れのない出合いに助けられた回帰の道であった。今西千葉キャンパスを去るに当っても、千葉大学薬学部とは強い絆で結ばれていると思っているので、別れの感覚は感じていない。そして、又、新しい人生での出合いに期待して明日を迎えたいと思っている。

最後まで実験を楽しみました

今甦る萩庭さく葉標本

萩庭標本

自然破壊の進む地球環境の中で、絶滅に瀕する動植物が数多く存在しています。薬用植物もその例外ではありません。

故萩庭丈壽千葉大学名誉教授（昭和25年６月～昭和57年３月まで薬学部に在職）は、その生涯をかけて沖縄、小笠原の各諸島から北海道北端まで植物採集のための足跡をしるされました。かくして、日本全土の薬用植物を含む顕花植物の約95％を蒐集され、作成されたさく葉標本は合計約６万点にも及びます。中にはすでに絶滅した植物も少なからず含まれており、質・量ともにわが国自生の顕花植物さく葉標本としては世界に類を見ないものといえます。かかる貴重な標本は、ご遺族から薬学部への寄贈のご意向が表され、現在は、薬学部標本資料室に保管されています。

日本の花の咲く植物の95%を網羅するという故・萩庭丈壽千葉大名誉教授の標本コレクション＝千葉市稲毛区の千葉大で

遺品の植物６万点ＤＢに

故萩庭・千葉大名誉教授が収集

花咲く国内種の95％網羅

教え子が作業　４万点完了

萩庭標本データベース作成協力会

1997年に薬学部学生・OBらにより萩庭標本データベース作成協力会が結成され、「ゐのはな山岳会」会員の有志、薬学部同窓生有志および学部教職員（現、元）有志が集まって、故人畢生の標本の整理、保管とデータベースの作成作業を行っています。1997年８月13日にデータ入力が始まって以来、述べ人数約600名が手弁当で作業に参加し、第一次分として約４万点の入力が済みました。今後は、本年８月を目処にそれらのデータベースの確認、稀品標本の写真画像化を行った後、薬学部のホームページを通して公開すると共に先生の遺された採集日記22冊をデータベースに組み入れて製本する予定でおり、限られた時間の中で誠心誠意頑張っています。

この間、本さく葉標本の一部は、千葉大学創立50周年記念展示会に薬学部の貴重な資料として出展されました。朝日新聞の記事（1999年11月２日付夕刊、写真入り）で紹介されたこともあって、萩庭標本を見に展示会に訪れた卒業生や植物愛好家がたくさん居られたことは大変喜ばしいことであり、薬学部創立110余年の歴史の中での誇りでもあります。

萩庭標本の学術的意義

先生の遺された本さく葉標本は、我が国における自生植物の生物資源、遺伝子資源さらには薬用資源の貴重なデータベースとして今後とも学術研究に大いに活用されるものと考えられます。

本年１月27日にNHKの番組“クローズアップ現代「2500万点の宝の山：放置される大学の標本」”で放送されましたように、他の大学では、植物に限らず標本の保管・利用が不十分で機能しないどころか、朽ちていくのを待っているといった状況になっていると報じています。千葉大学薬学部が故萩庭丈壽名誉教授の遺された標本を保存しそのデータを一般に公開することにより、千葉大学ばかりではなく、他の研究機関や一般の人からも利用されることになれば、この標本が千葉大学薬学部の一つの特長になるものと期待しています。

ボランティア募集と寄付金について

今後の計画として、現在作成中のデータベース（植物名、学名、採集地、採集日、採集者）から標本の写真が見られるようにして、より親しみやすいデジタル植物図鑑のようなものを作り、インターネットを通じて検索できるようにしたいと考えています。そのためには、デジタルカメラや撮影経費、薬学部にホームページを開設して大容量のデータベースの保存検索システムを作るための経費が500万円ほど掛かります。卒業生のボランティア参加と寄付金を募集しています。趣旨にご賛同してくださる方は下記の口座へ振り込んでください。よろしくお願いいたします（目標は500万円）。（昨年の薬友会報でお願いしましたところ、現在196万円の寄付が寄せられました。ありがとうございました。）

寄付金振込先

第一勧銀　喜多見支店
普通口座名：萩庭標本 DB 作成協力会
内田　尚子（会計幹事）
口座番号：152－1799400

萩庭標本データベース作成協力会幹事長　妹尾修次郎（昭41年卒）

三宅良一先生ご逝去を悼む

千葉大学名誉教授三宅良一先生は、肺ガンのため本年２月22日90歳で永眠されました。

三宅先生は昭和10年に東京大学医学部薬学科をご卒業後、昭和21年千葉医科大学附属薬学専門部に講師として着任、翌22年同教授にご昇任、昭和25年千葉大学薬学部発足時に薬化学教室担当教授となられました。昭和45年からは新設の薬品物理化学講座を担当され、昭和50年定年退官、名誉教授となられました。この間、先生は計３回学部長を勤められ、戦後の混乱期から高度成長経済期への日本社会の歩みの中で、本学部の基盤構築と発展に貢献されました。この功績に対し、昭和50年に日本薬学会教育賞、昭和57年には勲三等旭日中綬章を授けられました。

先生のご研究は油脂の水素添加に関する界面化学反応で、その銅触媒の発明は敗戦後の物資不足に悩む日本社会に大きく貢献しました。

定年後は米国シカゴで大好きな絵を描きながら、先生の研究の集大成となる新鋭界面化学をまとめ、出版されました。この出版は、千葉薬同窓会が主催した先生の退官記念会の事業であったことを御記憶の方もあると思います。画家の血筋を引く天性の芸術的感覚と科学的知性から生まれる、先生のお話は独創的で面白く、落語を好まれた語り口と相まって先生と接した多くの人に深いインパクトを与えました。その思い出は今も私達の中に生きており、先生が尽くされた本学部へのご貢献と共に末永く記憶され伝えられていくことでしょう。

千葉大学薬学部教授　津田　穣、前助教授　半田（笈川）節子

卒後教育への熱い眼差し

千葉大学大学院薬学研究科は今後の改革で卒業生にも様々な再教育の場の提供を検討しています。更なる研究・勉学・学位取得の意欲をお持ちの方のご意見を聞いてみました。

社会人講座開設を期待する

小　川　通　孝（S34年）

今や、わが国でも生涯学習が国の教育政策の基本的理念となり、多くの国民が取り組むようになった。生涯学習は国民の権利と言えそうだが、専門家にとってはそれは権利でなく義務となる。薬剤師の場合をみると、明治の薬剤師制度発足以来、医薬分業が行なわれなかったため、多くの薬剤師が医療の場からしめ出され、当然薬剤師を養成する薬学校においても、基礎的な医学知識を教えることが少なく、日本の薬剤師は「人体の機能、病態に対する知識が不十分」との指摘がされている。また、秒進分歩とも言える医療分野の最新の水準をクリアーした知識、技能を取得するには生涯学習で対応するしかない。しかし、必要性は理解していても、どこで何をやればよいのかわからない人も多い。このような中で、母校に社会人講座があると心強い。近い将来、質の高い講座が用意され、多くの卒業生に利用される日の来ることを心から期待している。

社会人学生一年生

博士後期課程２年　佐　俣　和　典

社会人学生と聞いてどの様な印象をお持ちですか？羨ましく思われる方もいる事でしょう。元来学ぶ事が嫌いでない私にとって、偶然にも社会人入学のチャンスを頂いた事は非常に幸運だったと思います。ただ、社会人学生という特殊な身分にはそれなりに苦労も伴います。

社会人学生の研究の進め方には幾つか方法があると思いますが、大体は勤務先の業務を担いながら限られた日数で通学し、教授などの指示の下研究を進めていると思います。従って多くの場合、勤務先を含めた学外での研究活動が重要になると思います。職場や家庭の状況が研究の進捗に影響を与えるからです。私の場合、職場の状況からこの一年は「自分の時間」があまりとれませんでした。従ってこの一年は自分自身悔いが残ったうえ、ご指導下さった先生方や応援してくれた職場の方々に申し訳ない事になり、反省しております。一方、社会人学生の魅力も感じました。学生さんに囲まれた環境は、若いエネルギーを吸収するのに最適でした。それは学会などで得るものとは別の刺激となりました。

社会人学生とは特別なものではなく、少しきっかけを与えてもらっただけでした。ただ、このきっかけをどう生かすかは自分次第だと思います。私はこのチャンスを大切にし、新たな気持ちで社会人学生２年目を迎えたいと思います。

博士課程を修了して

薬物学研究室　野　口　　清
（昭和57年卒、昭和59年修、平成12年博士後期課程修了）

私は、これまで会社に勤務しながら開発中の薬物の代謝および体内動態を研究して論文を発表し、学位論文としてまとめようとしたこともありました。しかし残念ながら、これらの化合物は臨床での効力が充分でないことからテーマ自体が修了となってしまい、これ以上の研究を続けることは出来ませんでした。以来、いくつかのテーマを担当してきましたが、学位取得までは至らず、気がつくと30代半ばになっていました。そんな折り、母校の社会人学生の制度を知り、社会人学生として再度研究室に所属する機会を得留ことが出来ました。在籍した３年間、会社員としての仕事をこなしながら、限られた時間を使っての研究を行ってきました。この間、大学の研究室ならびに会社の皆さんの御支援と激励に感謝しております。

この春、学位を取得し研究者としての一つの区切りを迎えたと思っています。今回の社会人学生としての経験を生かし、さらに新たな研究に挑戦していきたいと思っています。

研究室紹介

生化学研究室

生化学研究室の構成員は、教授小林弘、助教授懸川友人、助手斎藤浩美の３人です。この３人を含め総勢18人と、薬学部の中では小さな研究室に入ると思いますが、少数精鋭で研究に邁進しております。現在行っている研究テーマについて簡単に紹介します。

(1) 生物内の反応を担っている酵素はすべて活性がpHにより変化します。従って、生体内のpHが変わると反応の速度が変わるため生体は大混乱をきたし、時には死に至ります。生物はこのような混乱を避けるための手段を持っているはずです。この手段を明らかにすることが第一の研究テーマで、小林が担当しています。

(2) 遺伝子発現の翻訳レベルでの調節はまだよくわかっていません。そこで、懸川はmRNAに結合して翻訳調節をしているタンパク質の作用を調べています。また、創傷治癒を促進する薬剤の作用機序についても研究しています。

(3) 複数のサブユニットにより構成される酵素の分子集合は自発的に起こる、すなわち、サブユニットが存在すれば自然と集合すると考えられてきました。しかし、酵素の集合が他の因子により調節されている例が見つかりました。この分子集合の調節機構を斎藤が研究してします。

このように、私共の研究は薬の作用と直接結びつく研究ではありませんが、薬の作用を考える上で欠かせない研究であると考えています。これまでの研究成果は紙面の都合で割愛しますので、ホームページを見て下さい。　（小林　弘）

生物薬剤学研究室

生物薬剤学研究室は堀江利治教授、桝渕泰宏講師、一橋由扶子助手（2000年４月からは伊藤晃成助手）の３名のスタッフと、博士後期課程４名、博士前期課程９名、４年生５名の総勢21名の構成で研究、教育を行っています。

私たちの研究室では薬と生体との相互の関係を考えながら、薬の体内動態に関する研究、その中でも薬の消化管吸収と肝臓での薬の代謝に伴う諸現象を中心に研究を進めています。薬物吸収に関する研究では、小腸粘膜における各種輸送系を介する薬物吸収の亢進、抗癌剤などの薬剤性吸収不良とその改善などであり、肝臓では薬物代謝過程で発生する酸化的ストレス、活性代謝物による肝障害およびその防御などを研究しています。これらの研究を通して、薬の有効で安全な使用を薬剤学的な視点に立って考えていきたいと考えています。

昨年９月より桝渕講師は米国のNIHに留学中で、新しい研究テーマに取り組み、充実した日々を過ごしているようです。研究室では日本語を上手に話すようになった３名の中国からの留学生を含めて、各人が旺盛な探究心で主体的に研究に取り組んでいます。他大学との野球大会などを通じた交流、いつの時代もかわらぬ学生らしい雰囲気のある研究室コンパ、研究室旅行などの行事を楽しみながら、無限の可能性を秘めた若いエネルギーが研究に注がれています。（堀江利治）

岩城製薬株式会社

〒103-8434　東京都中央区日本橋本町４丁目８番２号
電話 03（3241）3210（代）

エーザイ株式会社

〒112-8088　東京都文京区小石川４の６の10
Tel 03-3817-3700

クラス通信

昭和９年卒業（昭九会）

薬学専門部を卒業したのが昭和九年であるので、既に66年の年月が去って行った。昭九会の名も昇給に因んでつけたのも一つの理由であった。卒業後は毎年、各地域が幹事となり、持ち回りで、日光で開いたり、名古屋で開いたり、奈良へ集ったり、箱根で開いたりと会合を欠かすことがなかったが、ここ10年程は出席者も少くなり会合を開くのを中止してしまった。昨年は寺井、保阪の両兄が亡くなられた。謹んで哀悼の意を表する次第である。とにかく元気なうちに顔合せをしたいものだと思案しているが、果して実現できるのだろうか。とにもかくにも、よく生きたるものよと痛感している。（中村　晃蔵）

昭和13年卒業（亥丘会）

1．11年４月５日に東京で臨時例会を開催。
　出席者…田中、飯豊、中込、内田、藤沢の５名
　京都から来た田中君を囲み話がはずんだ。
2．11年度も３人が他界した。
　　4．26　狩野貞太郎君　（肺炎）
　　5．30　中込正一君　　（脳内出血）
　　7．22　日比野辰太郎君（横隔膜の癌）
　ご冥福を祈る。段々淋しくなるな。
3．12年５月に東京で臨時例会を開催の予定。多勢の出席を期待している。
4．生存会員17、物故会員34、不明会員２、計53名
（藤沢　栄一）

昭和14年卒業

平成11年11月12日、新宿サザンクロスホテルで、クラス会を開いた。会する者九名。殆ど職を離れ、悠々自適の生活、話題は期せずして、健康のこと、淡々として話されたが、さながら老人病懇談会になったのは致し方ない。

去年は１月に在札幌　山形良一兄
　　７月に在館山　富沢道次兄
　　10月に在千葉　古山喜一兄

が逝去された。三氏とも、それぞれの業界にあって名士だった。天寿を全うされたのかも知れない。唯富沢兄は幅広い業界活動もさること乍ら、学校のことも、陰に陽に、公私共々に盡力されたことを銘記して、その生前を偲びたい。切に諸兄の御冥福を祈る。

今年のクラス会が出来るかどうか、小山幹事は心配している。（福神　益夫）

昭和15年卒業（二六会）

本年は、庚辰九紫火星。運勢的には中途半端で乱気流らしい。級友の多くは午と未。今年の午は一呼吸する年。昨年は不健康との卦のためか、３人の友を失った。未は大凶の年で、中毒、肝臓、皮膚に特に注意し、平常心と忍耐で過ごすこと。昨年は珍客を囲み会を開けた。おや関東にまた雪。このところ、やけに人の命が気にかかる。諸兄よ、亥鼻会で語ろう。互いに声をかけ合って21世紀へ進もう。われらの旅は、また始まる。（石丸　正美）

昭和16年３月卒業（一葉会）

平成11年度の歩み

４月13、14日　水戸市内、菊屋ホテル泊。市内遊覧、西山荘を訪ねる。地元の海老沢、重久両君のご尽力による。９名集合。

Cobridge
薬事申請の
お手伝いをいたします。
株式会社 コーブリッジ
Cobridge Co., Ltd.
〒113-0033　東京都文京区本郷 2-14-14 ユニテビル 610 号
TEL:03-3811-7337　FAX:03-3811-6813
URL:http://www.cobridge.com

人類に価値ある
新薬づくり、三共
SANKYO 三共
三共株式会社
〒103-8426 東京都中央区日本橋本町3-5-1 TEL 03-5255-7111

7月7日　東京駅八重洲口　ホテル国際観光に集り、午后の一刻を過す。9名集合。

10月5、6日　草津温泉　ホテル桜井　泊。地元の河合君にお世話になる。今回は初めて、伴侶同伴2組参加　大歓迎　9名集合

訃報　6月1日　鴇田　尚君　逝去。御冥福を祈る

平成12年度は、千葉市内で、会合予定

（向井　廣澄）

昭和16年12月卒業（宣葉会）

平成11年10月15日に日本橋で昼間のクラス会開催、国友、君塚、海東、林知夫、西口、藤井（1年のとき同級）と安田の7名旧交を温める。今年は信州の巣山君の所でクラス会を予定。正月早々に縄田君が急逝。残っている18名は身体に気をつけ頑張って欲しい。21世紀までもうすぐ、元気でまた会いましょう。

（安田　英夫）

昭和17年9月卒業（翠葉会）

5月30日、便利な会場と好評の不忍池畔『蓮風』で翠葉会を開催した。伊藤君、富沢君も出席して和やかに語りあった。77才ともなると何らかの病人のようである。台湾の地震で翁君の夫人を見舞った所無事で日本救助隊英雄に感謝していた。当会は朝日新聞の募金に応じておいた。亥鼻会の幹事が交代した翠葉会も如何だろうか。

（堤　保二郎）

昭和20年卒業（るつぼ会）

一泊旅行予定の11年度クラス会が、幹事山本君の海外旅行中怪我というアクシデントの為、前年通り新宿中村屋での開催に変更。出席14名。席上、旅行中の事故に際しての旅行保険の話題に、改めてその重要性を痛感した次第です。尚、池田（島崎）信夫、和田耕一両君の訃報に接しました。深くお悔み申し上げます。

（吉田　富佐男）

昭和22年卒業（臥豚会）

われわれの卒業は、55名で、物故者が15名のため、現在40名です。数名の開局勤務と自営業の外は、現役を退いており、クラス会も、平成5年度以降開いてお

技術は人にあたたかい
MEDICAL FRONTIERS
大正製薬
大正製薬株式会社　〒170-8633　東京都豊島区高田3-24-1
インターネットホームページ　http://www.taisho.co.jp

りませんが、春秋２回開かれる日本橋倶楽部の亥鼻会におんぶして、８名位が入れ替り乍ら集っています。昨年名簿作成のため全員に電話をしたところ、住所不明と応答なしが７名でした。生存者？の健康と無事を希って止みません。　（塩崎　國夫）

昭和23年卒業

平成11年のクラス会は５月22日、新橋「新橋亭」で開催。出席者は幹事の勧誘が奏功したのか、出席常連の物故者が出る中、例年より多い19名の出席を得て盛会であった。二次会は神楽坂“幸本”に９名出席歓談。反面淋しい事は越川栄重君が５月に逝去された事である。「合掌」

〔出席者氏名〕青柳舜三、伊藤昌弘、井上富夫、植草茂男、大塚享、小沢博義、鹿島明、杉本珪之助、塚本義二、友田正司、中西安治、長沢吉男、芳賀功、古川和男、古橋隆宏、三浦清、皆川忠義、安井恒男、渡部吉郎　（三浦　清）

昭和24年卒業

昨年のクラス会で欠席裁判99年は信州へとかで小生が幹事にさせられた。２月に日時・場所を決めて出欠の有無を出したが、待てど暮らせど殆ど音沙汰なし。それではと６月８日・信州安曇野（常念岳の麓）に替えてパンフレット５～６種を大封筒・速達便で出した。流石に皆驚いたらしく返事が続々と参加人員16名になった。翌日は上高地・緑山美術館・わさびの大王園・諏訪の大社等へ三々五々で解散し大役無事終了した。

（角間　覚兵衛）

昭和25年卒業

平成11年10月11日、浅草むぎとろ本店でのクラス会は出席19名、欠席３。一病を有する人も制御宜しく、それぞれ仕事・趣味・奉仕活動等を続けており、ご同慶にたえない。なお、今回不測時に備え緊急電話連絡網を確立した。

会の後、有志で観音様参詣、仲見世散策、しゃれたコーヒー店では各自趣味・趣向の半世紀を経た変容ぶりに花を咲かせた。

今秋は神奈川組のお世話で卒後50年に相応しい会を予定している。全員参加を期待する。（鈴木　昭治郎）

昭和26年卒業（ゐのはな会）

'99は畏友早川氏が亡くなりました。既に古希を迎え、未だ現役で頑張っている友が居りますが、後継者の育成等苦労も多い事と思いますが、お互健康に留意しませう。例年の同期会は４月13日に熱海で開催されますが、卒后半世紀になりますので、一夜を楽しく語り合いたいと思います。多数の参加を期待します。

（福島　靖）

昭和28年卒業（千葉薬二八会）

新制一回卒の私達は本年を以って老人保健の仲間になります。毎年懇親会を開催し、多くの人は趣味の世界に入っていますが、現役薬剤師として活躍している者も居り、私も市薬会長として頑張っています。毎日が患者への服薬指導や情報提供の調剤業務を楽しみ、介護保険相談・薬物乱用防止相談薬局の看板の下で地域への奉仕に努めています。薬剤師がやっと表舞台に出て、生涯薬剤師冥利です。　（北野　隆司）

循環器領域に貢献する。
医療用医薬品
トーアエイヨー株式会社
東京都中央区京橋３－１－２
研究所／大宮・福島　工場／宮城・福島
支店・営業所／全国23ヶ所

株式会社 常磐植物化学研究所
〒285-0801 千葉県佐倉市木野子158
TEL 0434－98－0007
ホームページアドレス
http://www.tokiwaph.co.jp

昭和31年卒業（千葉薬三一会）

1999年のクラス会は、5月6日に東京築地で開催され、海の幸を魚にして、それぞれこの1年間の進歩について報告しあい、科学の進歩、エレクトロニクスの応用についての議論にも花が咲きました。2000年には北陸を訪ねて、能登半島、金沢など加賀百万石の歴史を勉強する予定である。全国何処に行っても、千葉大学薬友会会員が活躍していることを見聞きし、千葉大学薬学部のさらなる発展を期待している。

（星　昭夫）

昭和32年卒業

金沢在住の土屋隆君が幹事で、昨年9月8日に石川県和倉温泉でクラス会を開催。16名が集まった（写真）。翌日は能登の景観を堪能した。次回は来年中に、札幌在住の小尾陞君の世話で北海道で開催の予定。

今年の3月で、卒業者全員が65歳以上の高齢者となった。心身ともに健康な「幸齢者」でありたいものだ。

（片岡　久男）

昭和33年3月卒業

亥鼻山での入学式からはや45年、三氏が鬼籍に移りましたが皆元気に活躍しています。5月30日に恒例のクラス会が開かれ、既に定年退職者も多いことから"交通費宿泊費共にほどほどで魚の美味しいところ"として"かんぼの宿大洗"に18名が参集しました。期待に違わぬ新鮮で豊富な海の幸を堪能しつつ、亥鼻山で出会った美少女、美少年（？）時代に立ち戻ったひとときを過しました。年々女性の参加者が増え、幹事を喜ばせています。

（武藤　明臣）

昭和34年卒業

平成11年は、わがクラスにとって卒業四十周年となる。それを記念して同期会は沖縄で開催と決定し、4月16日㈮に14名が那覇市沖縄都ホテルに集合し、すばらしくも楽しい二泊三日の会の幕が開かれた。

今回の地元幹事は山川雅延君。元沖縄県薬務課長の経歴と沖縄県人の特性のもてなしの心を発揮し、見事な企画を立案し、案内にも徹していただいた。首里城正殿の朱のあざやかさ、40万㎡の大植物園東南植物楽園の南国的風景に感嘆の声を上げ、ひめゆりの塔ではひそかに胸を痛めた。豊かな人情と美しい風景の中にも戦争と平和を考える記念会となった。（小川　通孝）

昭和35年卒業（珊瑚会）

昨年4月10日に行われたクラス会は、ホテルでのクラス会に東宮御所の散策を加えた少々アウトドア志向のクラス会となりました。新緑の御所を散策後、東京パレスホテル内でクラス会を開催。鬼籍に入られた会沢春男君のご冥福をお祈りした後、今成先生の千大の近況報告に耳を傾け、その後時間の経つのも忘れ歓談を楽しみました。二次会では旧交を温めつつ翌年の沖縄クラス会での再会を誓い合い解散となりました。

（前田　孚）

昭和37年卒業

恒例クラス会が平成11年6月12日（土）午後、東京・丸ノ内の日本工業倶楽部で開かれました。遠くは北海道からの参加もあり、21名が集まり話の弾む楽しい―

最先端技術で取り組む
最高水準の診断用医薬品
日本メジフィジックス株式会社
〒662-0918 兵庫県西宮市六湛寺町9番8号
Tel 0798－26－7006
Fax 0798－26－7646

労働大臣許可
社団法人 埼玉県薬剤師会
薬剤師無料職業紹介所
登録受付日：月～金曜日（ただし、祝日・年末年始を除く）
受付時間：9：30～11：30及び13：00～16：00
〒330-8631 埼玉県大宮市土呂町1丁目50番地6
TEL 048－653－5261
FAX 048－652－6060

時を過ごしました。クラス会幹事は今回の斉藤から次回（平成13年）は池田守男・愛子さんへ引き継ぐことになりました。間もなく卒後40周年となりますので、次回はそのことも話題になると思います。斉藤實さんからの同人誌を回覧しています。（斉藤光高・郁子）

昭和38年卒業

西暦2000年、400年に一度の閏年、更には還暦ということで今年は人生の大きな節目かもしれません。昨年は在学時代の思い出の地、中央アルプスの千畳敷で同期会を行い、昔と変わらぬ風景も含めて懐かしの一時を過ごしました。今後は少しは余暇が増えて出席者も増えそうです。今年の幹事さんよろしくお願いします。（鷲見　常夫）

昭和41年卒業

コンパ大好き集団の私達。一泊旅行も隔回に入れて一年か二年に一度は必ず級会を行っています。今回は昨年10月新宿のパブセントラルに19名（男10女9）が集いました。萩庭先生の標本整理進行状況，役職定年後の各々の新しい生き方、子供達の結婚話など話題は尽きず二次会、三次会まで全員出席。それでも別れがたかったです。次回は卒35周年記念として同級生の葉英梅さんの故郷台湾を訪れる案も出てますので又楽しくなりそうです。（植原　眞裕美）

昭和46年卒業

一昨年の6月に伊香保温泉で薬学科男7人が集まり46野郎会を開いた。そして皆大いに飲み語り若さを発揮してくれた。当日欠席した星薬科大・教授の中澤氏とは今仕事の上でコンタクトをもち、先月もMTGのあと、一緒に飲み空オケをやり、彼の素晴らしい美声を聞かせてもらった。アベンテイスの下川氏とは先輩のD3研旗揚げの時、一緒に協力し、相変わらずのマメさを肌で感じた。来年21世紀の4月で卒後30年となるのでクラス会を製薬科と合同で是非開きたいと考えている。（永井　栄一）

昭和47年卒業

上田（旧姓谷口）典子さんが昨年11月19日亡くなりました。10年前の癌の手術から5年後、肺への転移がわかったときから、ご主人と共に全力で闘ったそうです。薬剤師としての専門知識を基に治療法についても医師とよく議論もしたそうですが、一方では、口に出せば闘う気力が失せると、お子さんにも1年程前まで告げなかったそうです。最後まで家族への気配りも忘れず本当に立派であったそうです。ご冥福を心からお祈りいたします。（鈴木　久美子）

昭和51年卒業

本会報で御存知かと思いますが、毎年7月に薬友会主催の生涯教育セミナーが開催されています。昨年は丁度クラス会のない年でしたので、このセミナーの参加者が勉強で疲れた頭（？）をほぐそうと有志で集まり、「非公式ミニクラス会」を開きました。いつものことながら、いいオジサン、オバサンが集まるとすぐに20ん年前の顔、しゃべり方になるからおもしろいですね。今年は11月に「定例クラス会」が開催されると思います。是非またお目にかかりましょう。

（渡辺　敏子）

昭和55年卒業

1999年7月3日、幕張新都心ホテルスプリングスにて22名の参加により3年ぶりの同窓会を開催しました。千葉県在住者が少ない中、出席者の数が危ぶまれましたが、宿泊しての参加もあり、次回は温泉で、などの話も、持ち上がりました。卒業して20年、キャリア組にはそれなりの自信と力が感じられ、家庭に入った組も薬剤師として仕事に復帰し、がんばっている様子でした。（西澤　伸子）

平成9年卒業

私達の年代は、学部は社会人3年目、修士卒は1年目となります。修士卒の人は、新たな世界への一歩を踏み出しました。さて、昨年の10月10日に、卒業後初の同窓会が銀座で開かれました。30人程集まり、盛況な会となりました（幹事の竹中さんに感謝！）。

最後に結婚のご報告（判明分）。東谷さん、麻生さん、岡島さん、佐藤さん、高橋（佳）さん、林さん、阪東君&湯田さん、森藤さん、ご結婚おめでとうございます！（伊藤　貴夫）

平成11年卒業

卒業してから早一年が経とうとしています。就職した人はそろそろ仕事に慣れ、社会の厳しさや働く意義を痛感していることでしょう。進学した人は（僕もその１人ですが）院生の意識をもって実験に打ち込んでいると思います。そろそろみんなで集まりたくなりませんか？そこで今年の12月辺りに同窓会を開こうと考えています。何か意見がありましたら御連絡下さい。
barba@p.chiba-u.ac.jp　　（小林　裕明）

平成12年卒業

今、日本に不安の嵐が吹いている。未来は明るいはずだった。こんな時代にどう生きろと言うのか？我々は未だ確信ある答えを見出していない。だが、更なる研鑽のため大学院へそして実社会へと旅立つそれぞれが恵まれた資質とやがて顕在化するだろう多様な才能により未来の豊饒化に加担することを、私は固く信じている。そして、人生という劇場で共に一場面を演じた言葉には到底つくせぬほど複雑多岐に渡る個性との遭遇に感謝したい。　　（右京　芳文）

平成12年度４年生

研究室が決定し、薬学という専門分野からさらに奥深い専門領域へと学問を学ぶさらなる一歩を踏み出し始めました。毎日顔を合わせていたクラスの人々もそれぞれの研究室でそれぞれの専門知識を得ていくものと思います。自ら学び考えることが、今まで以上に必要となるでしょう。一人一人進む道は違いますが、各々の専門知識だけでなく、物事を全体的に広く考える力を身につけ、それぞれの道を歩んでいくことを期待します。　　（片桐　大輔）

平成12年度３年生

入学からはや２年が過ぎ、ついに来ました実習の季節。殺人的なスケジュールに追われながらも、本来の研究生活に思いを馳せ、何とか乗り切っていく覚悟でいます。

学部生としての生活も折り返し点を過ぎて今年度の終わりには、進む研究室も決定しているはず。何はともあれ、風邪のために病院で注射を打ってから受けた去年の薬理学Ｉの試験を教訓に、健康管理にも充分に気を配って、今年もまた突っ走っていくつもりです。
（都祭　正則）

平成12年度２年生

私達が入学してから、早くも１年が過ぎました。全く新しい環境へ入り、初めはお互いに手探りの状態だった気がします。しかし、普段の生活やテスト後の打ち上げなどを通して徐々に慣れていき、みんなで遊園地に行ったり、旅行したりできるようになりました。学校のみんなといる時間がより楽しく、落ち着けるものになったことが嬉しいです。学部の人数が少ないことをメリットとして、これからもみんなで楽しめたらいいなと思います。　　（十河　総子）

支部だより

◎ 東京支部

平成11年11月12日、日本橋倶楽部にて東京支部総会を開催した。64名の参加があった。五十嵐一衛薬学部長（昭和39年卒）の「大学の現況」と長尾美奈子女史（昭和34年卒）の国立がんセンター研究所時代に研究された一端「発がん研究から予防をめざす」の講演を聴いた。がんの予防には食生活の関与が大きいことを改めて実感した。

薬友会の発展は、いかに支部活動を盛り上げ充実させるかがキーポイントであると思う。その為には本部がいかに支部へ物心両面ご支援することを要望したい。

本年は若手の方々、女性の方々の参加を促進するため、新役員に昭和50年代卒の方々にお願いし、快く引き受けていただき感謝している。お陰で総会には若い方も多数参加し、会を盛り上げてくれた。
（渡辺　　楷）

◎ 神奈川支部

平成11年11月30日（火）、横浜市中区山下町のホテルにおいて、来賓の五十嵐薬学部長・渡辺東京支部長そして老いを感じさせない60歳以上の先輩方、８名の女性を含め、38名の同窓生が集い、華やかに催された。出席者全員の30秒スピーチでは、大学時代・会社勤めの思い出や現在の心境などそれぞれの好き勝手な発言に拍手や笑いが起こり、和やかに幕を閉じた。
（村瀬　一郎）

亥鼻会

1．会合経過

第13回　11.4.23　　東京都元河川部長

「手品あれこれ」　　40名

第14回　11.10.15　　五十嵐薬学部長

「薬学部の現状と将来」　48名

2．亥鼻会文集第２号の配布

原稿送付者及び出席者に無料で配布した。

3．幹事の交替

藤沢幹事は７年間14日幹事を務めたので退任し、後任として昭和23年卒業の井上冨夫氏が就任した。

（藤沢　栄一）

あのはな山岳会

本会は昭和34年６月の川苔山集中登山で発足してから昨年で丁度40年目を迎えた。これを記念し11月、上は昭和30年卒から下は平成９年卒までのメンバーが縁の川苔山に登り、夜の祝宴にはゲストとしてお招きした萩庭夫人以下30名が参加した。また93ページから成る記念誌を作成した。５月には永年幹事を務めた吉田さんを失ったが毎月１回の山行を続けている。山行に参加希望の方には案内状を送りますのでご連絡下さい。また記念誌は余裕がありますので１部2000円で配布しています。

申込先　〒379-0134 安中市簗瀬120-4　近藤　清宏

TEL, FAX 027-385-6775

（福原　　正）

訃報

薬友会副会長　吉田智子さんは昨年５月14日肺がんのため三宿病院で亡くなられました。吉田さんは昭和30年本学を卒業後薬品分析学教室で研究を続けられ42年まで多くの学生が実習でお世話になりました。其後ヤトロンに入社、51年から平成９年まではカイノスで役員として活躍されました。昭和57年から休眠状態のあのはな山岳会の幹事を引き受け、見ごとに復活させました。平成９年から萩庭標本データベース作成協力会の事務局として精力的に標本の整理をされました。標本整理も軌道に乗った現在、その完了を待たずに逝かれましたことは本当に残念です。これら生前の御活躍に深謝し、御冥福をお祈り致します。

（福原　　正）

サークル紹介

● 薬学茶道部

私達薬学茶道部は、毎週金曜日に講堂和室でお茶のお稽古をしています。大学祭でお茶会を開く他、夏合宿や春合宿を企画して、お茶を楽しんでいるサークルです。

先生が親切に御指導して下さいますので、未経験の方も、男性の方も、和菓子は好きなんだけど……という方も、是非一度のぞいてみて下さい。

（岩崎　美砂子）

薬友会より

平成12年－13年　主な活動予定

12年5月　会報10号発行
　7月　役員会・総会・生涯教育セミナー
　12月　役員会・常任理事会
13年5月　会報11号発行
　7月　役員会・生涯教育セミナー
　12月　役員会・常任理事会

平成11年　活動報告

3月　新入生入会案内（終身会員83名入会）
5月　会報9号発行
7月　役員会（37名出席）
　第8回千葉大学薬友会生涯教育セミナー開催（千葉大学けやき会館）「健やかな未来と薬学」（講師5名、参加者204名）
12月　役員会・常任理事会（28名出席）

資金協力のお願い

本会の活動を益々盛んにするために、会員の皆様に終身会員へのご加入とご寄付をお願いしております。

1）終身会員。会費2万円。昭和48年に開設。（現在50%加入）会員名簿を無料で配布します。
2）寄付（1口2千円から受け付けております）。特に、終身会費が1万円であった皆様のご協力をお願い申し上げます。
3）会報、名簿への広告掲載にも、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

上記いずれのお申し込みも、同封の郵便振込用紙がご利用頂けます。

各種委員会名簿

総務委員会　○矢野　眞吾、上田　志朗、小口　敏夫
村上　泰興（S36）、立崎　　隆（S41）
野中　浦雄（S42）
石川　　勉（前委員長：アドバイザー）

財務委員会　○上田　志朗、矢野　眞吾、小口　敏夫
望月　眞弓
村上　泰興（S36）、立崎　　隆（S41）
野中　浦雄（S42）、藤沢　栄一（S13：アドバイザー）
原　　修（前委員長：アドバイザー）

名簿委員会　○小口　敏夫、矢野　眞吾、上田　志朗
村上　泰興（S36）、立崎　　隆（S41）
野中　浦雄（S42）
斉藤　和季（前委員長：アドバイザー）

事業委員会　○千葉　　寛、山本　恵司、渡辺　敏子
堀江　俊治、小椋　康光、山形　真一
大川　幸子（S32）、小川　通孝（S34）
矢野　眞吾（前委員長：アドバイザー）

会報委員会　○今成登志男、細川　正清、柏木　敬子、北島満里子、印南　　朱（大学院生）、安村今日子（大学院生）、小川　通孝（S34）、加藤　文男（S47）、角田　範子（S52）
戸井田敏彦（アドバイザー）
（○印；委員長）

千葉大学薬友会役員会・総会のお知らせ

日時：平成12年7月15日（土）

役員会：午前10時～11時
総　会：午前11時～12時

場所：千葉大学薬学部第2講義室
議題：1．事業報告　　2．会計報告
　　3．事業計画　　4．その他
懇親会は同日開催の生涯教育セミナーのミキサーと合同です。セミナーの方に申込み下さい。

学部だより

1999年度　卒業生、修了生の進路

学　部　進　学：48名（千葉大学大学院博士前期課程他）
　　就　職：28名（三共3名、中外製薬2名、その他）
　　その他：8名
修　士　進　学：8名（千葉大学大学院博士後期課程）
　　就　職：54名（第一製薬3名、萬有製薬3名、三共3名、その他）
　　その他：4名
博　士　就　職：5名
　　その他：5名（社会人学生のため継続勤務の者3名、千葉大学研究生2名）

2000年度　薬学部入学者（88名）出身一覧

前期・後期日程入学試験合格者　77名

16名　東京都（豊島岡女子学園２名、その他14校各１名）

14名　千葉県（県立船橋２名、渋谷教育学園幕張２名、東邦大学付属東邦２名、その他８校各１名）

７名　埼玉県（川越女子２名、その他５校各１名）

６名　神奈川県（６校各１名）

５名　群馬県（太田女子２名、県立前橋２名、その他１校１名）

３名　栃木県（宇都宮女子２名、その他１校１名）
福岡県（３校各１名）

２名　茨城県（２校各１名）長野県（県立長野２名）
北海道（２校各１名）山梨県（２校各１名）
新潟県（２校各１名）三重県（２校各１名）

１名　山形県、愛知県、秋田県、佐賀県、兵庫県、富山県、鳥取県、香川県、愛媛県、静岡県、山口県

推薦選抜合格者　10名

横浜雙葉（神奈川県）、お茶の水女子大学附属（東京都）、千葉東（千葉県）、日川（山梨県）、仙台第三（宮城県）、横浜市立南（神奈川県）、栃木女子（栃木県）、暁（三重県）、小山台（東京都）、県立千葉（千葉県）

帰国子女選抜合格者　１名

１名（オーストラリアより帰国）

1999年度学会賞受賞

受賞月日	学会名・賞名	受賞者	受賞業績題目
平成12年３月28日	日本薬学会　平成12年度学術貢献賞（第２部門）	今成登志男	「グリコサミノグリカンの分析化学ならびに多様性、機能に関する研究」
平成12年３月28日	日本薬学会 平成11年度佐藤記念国内賞	高山　廣光	「熱帯産生物資源からの創薬シード分子の検索と合成化学的研究」
平成12年３月28日	日本薬剤学会 平成12年度旭化成製剤学奨励賞	小口　敏夫	「固形製剤中の医薬品の結晶性質および分子間相互作用に関する研究」

1999年度主催学会

日程	学会名	場所	主催研究室・代表者
平成11年４月２日	International Symposium on the Frontiers of Medicinal Plant Product Research	千葉大学大学院自然科学研究科大会議室	薬用資源教育研究センター 斉藤和季 相見則郎
平成11年６月22日～25日	The 16th International Conference of Photopolymer Science and Technology	千葉大学けやき会館	千葉大学主催 事務局：薬品物理化学研究室 津田　穣
平成11年12月３日	BACPAC Ⅰ ワークショップ 製剤機械技術研究会	千葉大学けやき会館	製剤工学研究室　山本恵司

1999年度博士学位授与者一覧

甲号（博士後期課程）

氏名　　論文題目

（平成12年３月24日）

磯部　敏男　「キラルグアニジン：合成ならびにその不斉反応への応用」

井上　健司　「高等植物における硫黄同化系の制御機構の解明と代謝工学」

大森　紀人　「自己組織化による機能発現の原子レベルメカニズム－特にスルホニウムカチオンについて」

川原　倫明　「脳機能改善薬を指向した光学活性フィゾスチグミンの新規簡易合成法の開発研究」

久保田隆廣　「日本人におけるCYP2C19、CYP2D6、CYP2C9の変異遺伝子に関する研究」

佐藤　陽美　「大気中の環境汚染物質が肺に及ぼす変異原性の評価に関する研究」

Sunee Chansakaow

「Phytoestrogens from *Pueraria mirifica*（プエラリア・ミリフィカのエストロゲン活性成分の研究）」

中村　昭夫　「マクロライド抗生物質の新生理活性作用および薬剤耐性に関する研究」

野口　　清　「新規抗うつ薬 YM992 の体内動態に関する研究：前臨床試験からのヒト体内動態の予測」

平田　宏司　「抗癌剤フルオロウラシルによるラット空腸粘膜障害に対する経口プロスタグランジン E_1 誘導体製剤の防御効果に関する研究」

乙号（論文審査）

氏名	論文題目
（平成11年5月6日）	
岡崎　利夫	「新規アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬、YM358 および関連化合物の合成と構造活性相関に関する研究」
齋藤　朋子	「立体配座を考慮して合成された新規グルタミン酸関連化合物の生理活性に関する神経薬理学的研究」
前田　秀栄	「溶解度パラメターによる医薬品及び医薬品添加剤の物理化学的評価の研究」
（平成11年8月4日）	
遠藤　朋宏	「大環状シクロデキストリンの存在の証明及び ε－、τ－シクロデキストリンの結晶構造解析」
花輪　智子	「細胞内寄生細菌の病原性発現過程におけるストレス蛋白質の役割に関する分子生物学的研究」
加瀬　義夫	「半夏瀉心湯の止瀉作用ならびにその作用機序に関する薬理学的研究」
（平成12年1月21日）	
Siriporn Okonogi	「Changes in physicochemical characteristics and improved dissolution of poorly water soluble drugs via solid dispersions with water soluble and porous carrier」
堀内　秀樹	「新規尿酸低下薬、TEI-6720 の薬効と安全性に関する薬理学的研究－アロプリノールとの比較研究－」
松村　　学	「経口 MRI 造影剤の用時懸濁型顆粒剤に関する製剤化研究および造影効果の評価」

職員の異動（1999. 5～2000. 6）

平成11年9月1日

奥石　一郎　助教授昇任（九州大学大学院薬学研究科へ）

平成11年12月31日

真山香代子　教務職員辞職（微生物薬品化学）

平成12年2月1日

上原　知也　助手採用（放射性薬品化学）

平成12年3月31日

畝本　　力　教授　停年退官（膜機能学）

大橋　國雄　教授　停年退官（放射性薬品化学）

澤井　哲夫　教授　停年退官（微生物薬品化学）

渡辺　和夫　教授　停年退官（薬品化学）

辻（一橋）由扶子　助手辞職（生物薬剤学）

額賀　路嘉　助手辞職（微生物薬品化学）

平成12年4月1日

村山　俊彦　教授昇任（薬品化学、北海道大学大学院薬学研究科より）

山本　友子　教授採用（微生物薬品化学、杏林大学医学部より）

伊藤　晃成　助手採用（生物薬剤学）

佐藤　陽美　教務職員採用（薬品分析化学）

平成12年4月16日

堀江　俊治　助教授昇任（薬品化学）

平成12年5月1日

山崎　真巳　助教授昇任（遺伝子資源応用）

平成12年6月1日　予定

山口　直人　教授採用（膜機能学、静岡県立大学薬学部より）

第9回千葉大学薬学部・薬友会生涯教育セミナー（宮木高明記念セミナー）開催のお知らせ

平成12年度の千葉大学薬学部・薬友会生涯教育セミナー（猪之鼻奨学会後援）を、千葉大学構内正門脇の大学ホール「けやき会館」にて開催します。今年の主題として「2000年薬学の夢」を選びました。新世紀まで一年を切った今日、薬学の将来はどのようになるのでしょうか。生涯教育セミナーでは医薬品を取り巻く最もホットな話題の一つであるゲノム創薬、毛髪再生促進薬ミノキシジル（リアップ®）、がんと食物の関係、高齢化社会と漢方薬をとりあげ、先生方にご講演いただきます。どうぞこの機会に、多くの方々がセミナーにご参加下さいますようにご案内申し上げます。

なお、昨年度からの特別企画として、いくつかの卒業年次の皆様を順次、「生涯教育セミナー」にご招待しております（但し、ミキサー参加費は別途徴集させて頂きます）。下記のご案内に注意して下さい。

1）主題「2000年薬学の夢」

2）演題と講師

薬友会会長挨拶　五十嵐一衛（千葉大学薬学部長）

1.「ゲノム創薬の光と陰」
　藤田芳司（グラクソウエルカム（株）研究本部長）

2.「毛髪再生促進薬ミノキシジルの薬理」
　小友進（大正製薬セルフメディケーション開発研究所プロジェクトリーダー）

3.「がんと食物」
　長尾美奈子（東京農業大学応用生物科学部教授、前国立がんセンター研究所部長）

4.「高齢化社会に生かす漢方薬の知恵とサイエンス」
　渡辺和夫（千葉大学薬学部名誉教授）

3）日時：平成12年7月15日（土）13：00から17：00（この後、ミキサーを開催する予定です）

4）場所：千葉大学大学ホール（けやき会館）
　千葉市稲毛区弥生町1－33　千葉大学西千葉キャンパス内
（JR西千葉駅北口より南門経由で正門方向へ徒歩7分。または京成電鉄みどり台駅より正門経由で徒歩6分）

5）参加予約の方法：同封の申込用紙に、参加者氏名、住所、卒業年次、職業をご記入の上、下記郵便振替口座に参加費をお振込み下さい。〈参加予約締切：平成12年6月30日（金）〉
　郵便振替口座　00150－5－551796　千葉大学薬友会

6）セミナー参加費：2,000円（予約時）　3,000円（当日）

7）ミキサー参加費：2,500円（予約時）　3,000円（当日）

8）本セミナー参加者には日本薬剤師研修センターより3単位が認定されます。

9）連絡先：〒263-8522　千葉市稲毛区弥生町1－33　千葉大学薬友会事業委員会（担当　千葉　寛）
　TEL／FAX 043－290－2919

生涯教育セミナーへのご招待：本年度は薬学部卒後35年の1965年（昭和40年）、卒後45年の1955年（昭和30年）、卒後55年の1945年（昭和20年）卒業の方々、および1934年（昭和9年）以前に卒業された方々をご招待致します。該当する皆様は、当日受付にてお申し出下さい。この機会に是非母校に足を運ばれ、その変貌振りをご覧頂くとともに、旧友と示し合せてセミナー終了後のひとときもお楽しみ下さい。

編集後記

本薬学部の100周年を期して創刊された薬友会報が今回で10号を重ねることになり、また千葉大学も昨年創立50周年を迎えました。会員の中でも西千葉キャンパスで学生時代を過ごされた方が多くなりましたので懐かしい駅の周辺を表紙にしました。又、今年は4人の教授が退官され、新任の教授を迎えるなど、将にミレニアムに相応しい年となりました。一方、故萩庭教授が長年採集された植物標本の整理が卒業生有志の熱意によって進められ、社会に波紋が広がるなど会員の連帯感も見えております。21世紀と云う大きな時代の節目に向かって、社会も大学も大きな変貌を遂げつつあります。大学は教育・研究のみならず、心のつながりを通して卒業生や社会と結びつくよう強く望まれていると痛感しました。

会報委員

今成登志男（委員長）、細川正清、柏木敬子、北島満里子、印南　朱（院生）、安村今日子（院生）、小川通孝（S34）、加藤文男（S47）、角田範子（S52）、戸井田敏彦（アドバイザー）